研究ノート

大学生の結婚観と性役割認識についての基礎的研究
―BL を読む者と読まない者の視点―

井島　由佳

本研究の目的は、大学生がどのような結婚観を抱き、どのような性役割意識を持っているのかについて、BL を読む・読まない者の視点から検討することである。本格的な調査前に若者を代表とする大学生がどのような認識を持っているのかについて簡易的調査を行い、BL 読者とそうではない大学生の意識概要をまとめ、未婚化・晩婚化のプロセス解明への一助となる基礎的研究を行うことであった。

その結果、現段階では腐女子に限らず学生は、伝統的な性役割意識は低下して否定的な傾向であり、BL を読む学生は読まない学生よりも結婚を望んでおらず、しなくてもよいという考えも読まない学生よりも多い結果であった。また、将来に結婚をしたいと考える学生はBL を読まない学生で 6 割強、読む学生で 3 割強であったことから結婚観も低下傾向であることが示唆された。

キーワード：大学生、BL、結婚観、性役割意識、ライフキャリア

１．はじめに

昨今の日本では未婚・晩婚化が進んでおり、ライフキャリアにおいて結婚や家庭を持つという視点や生活における性役割意識は薄れてきていると考えられる。この現象の心理的影響へのプロセスとして注目できるのが腐女子の心理・意識研究である。BL マンガを読む女性（腐女子）はこの傾向が強いことが川合（2017, 2018）の「現代女性の未婚・晩婚化とジェンダーのゆらぎに関する研究」で示唆されている。

川合（2018）は、女子大学生を中心に調査を行い「腐女子は伝統的な性役割を肯定する傾向が、腐女子でない女性よりも顕著に低かった。腐女子は、自身の女性性を受容している一方で、女性への通念的な性役割に対しては否定的であることが明らかとなった」と示した。同時に、「腐女子群は、自身のジェンダー・パーソナリティや共感性、他者への意識において、腐女子でない女性との違いはなかった。一方で、恋愛観については、恋愛ものを好む女性は恋愛を大切であり必要なもの、成長を促すものと考えている一方で、腐女子はあまりそう考えていないことが示唆された。さらに、腐女子は、社会的通念としての伝統的な母親役割を信じる傾向が、腐女子でない女性よりも顕著に低いことが明らかとなった」と示した。腐女子は結婚や性役割、母親となることについてやや肯定的ではないとい

う結果である。

ただし、結婚観については腐女子のみならず全体的に自由度が高まっている。平成25年（2013）版厚生労働白書によると、結婚するかしないかについて、70.0%が「結婚は個人の自由である」と考えており、1992（平成4）年時点（62.7%）と比較すると、約7ポイント増加している。特に、20歳代、30歳代では9割近くが結婚は個人の自由であるという考え方に「（どちらかといえば）賛成」としており、現在から約10年前より結婚観については変容している。

一方で、「縁結び大学」（株式会社ネクストレベル）による“令和世代の結婚願望”についての調査（2020）では、30歳以下で「いつかは結婚したい」と思っている人は、男性70．1%、女性73%で、結婚したい理由の1位は男性が「支え合える人がほしい」、女性が「子どもが欲しい」という結果であった。若年者の間では、結婚は“したい人がするもの”という価値観がある一方、「“自分は”いつかは結婚したい」と思っている人が多数派となっておりヘテロノーマティヴィティの範疇であり、厚生労働白書とはやや矛盾する結果とも考えられる。

また、結婚後の収入と家庭の役割分担については「夫と妻が収入も家事も同等」が男性は55．1%、女性は45．9%であり、“結婚生活において男女平等”を希望するのは、女性よりも男性の方が多いことが示された。共働きを前提とすることにより、家庭内での男女の役割への意識は変化しているが、女性は従来の収入と性役割を容認している傾向も考えられる。この結果は、川合の腐女子の意識とやや離れている。

全体的に女性は、「結婚はしたい人がすればいいが、自分はしたいと思っている。子どもは欲しい。家事は完全平等でなくてもよい」というヘテロノーマティヴィティでありながら、現実的に、未婚化・晩婚化は加速している。腐女子は女性への通念的な性役割に対しては否定的で、恋愛を重視する傾向は低く、伝統的な母親役割を信じる傾向も低いとされており、腐女子の意識は全体的な意識とは異なることを示していることから、未婚化・晩婚化のプロセス解明の参考にすることが可能である。

ただし、伝統的性役割認識を否定するのは腐女子や女性だけとは限らず、昨今の若者の価値観であることは否めない。小学校から男女別ではない名簿と席順を経験し、男女問わず家庭科を履修してきた現在の大学生は、腐女子であるかないかは関係なく、「いつかしたい」という結婚観が高く伝統的な性役割認識は否定しているという仮説となる。

そこで、本研究の目的は、大学生がどのような結婚観を抱き、どのような性役割意識を持っているのかについて、BLを読む・読まない者の視点から検討することである。本格的な調査前に若者を代表とする大学生がどのような認識を持っているのかについてプレ調査を行い、BL読者とそうではない大学生の意識概要をまとめ、未婚化・晩婚化のプロセス解明への一助となる基礎的研究を行うこととする。

2．方法

2-1　調査について

調査対象者　A県の私立大学2校において、筆者の担当する授業を履修している18歳～21歳の大学生228名。当初、性別を回答する項目を設けたが、Xジェンダーや性別を回答したくない者があっ

たことから、本研究では敢えて一般的な男女別では行わず、全ての性別を含んだ「大学生」という括りとした。

調査内容と手続　授業後に実施する、WEB で行うアンケートを用いて質問を記載し、指定の期日までに回答を得ることで集計を行った。集計時は匿名性を保つため学籍番号と氏名を削除した。質問項目は表 1 とした。この他、記述式で男性の育児休暇取得に関する意見を求めた。

表 1　質問項目

1	BLマンガを読みますか？
2	「ブロマンス」という言葉を知っていますか？
3	性役割についての質問です。家事や育児は誰が積極的に担うことがよいでしょうか？
	選択肢　①女性（女性的立場），②男性（男性的立場），③パートナーの両方、④どちらでもない
4	将来的に結婚したいですか？
	選択肢　①結婚したい、②結婚したくない、③結婚しなくてもよい、④事実婚でよい、⑤わからない

2-2　結果と考察

回答者 228 名のうち、BL を読む学生は 49 名で読まない学生は 179 名であり、読む学生は 21%であった（図 1）。今回は BL をどの程度読むのかまでは調査内容に入れていなかったが、BL のコアファンならば近年注目されている言葉として「ブロマンス」の存在について質問を行った。結果は、読む学生で知っている割合は 18．3%、読まない人で知っている割合は 5．0%であった。BL を読む者でも知っている者は 2 割以下であったことから、BL をマンガのカテゴリーの 1 つと見なし、本調査では腐女子と言われるようなコアファンは少ないと推察された。

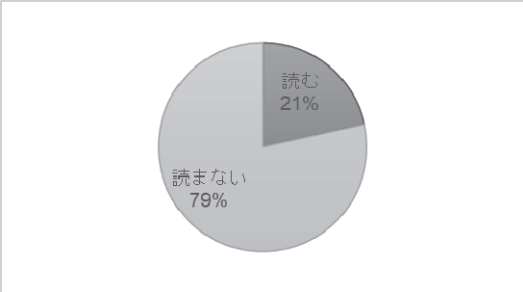

図1　BL を読むか

性役割に関する回答は図 2 の通りであり、BL を読むか読まないかに関わらず、9 割以上の学生が家事や育児は両者がするものであるという考えに立ち、どちらかに寄った性役割の考えを殆ど持っていなかった。これに関連して、男性の育児休暇取得に関する意見において、数名を除いて肯定的であり、男性も積極的に取得するべきもので、企業も取得しやすい雰囲気を作ることが望ましいという意見が多数あった。家庭は家族で支え合うものであり、どちらかだけに負担がかかることに対しては否定的な意見であったことは、性役割観のベースにあると言えた。

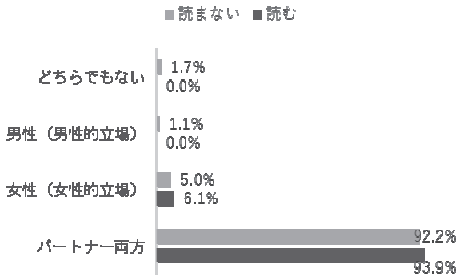

図2　性役割について

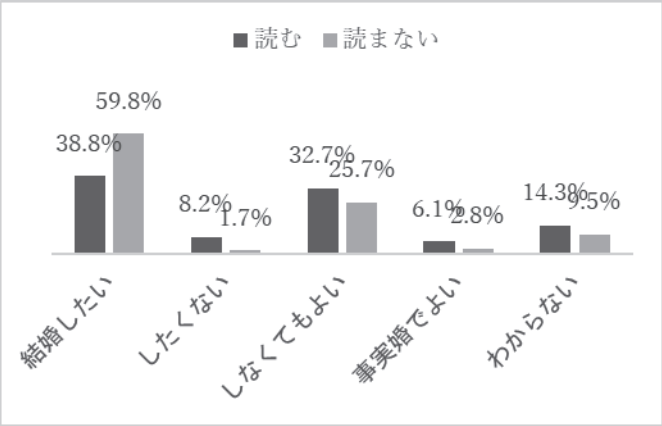

図３　結婚観について

結婚観に関しては図３の通り、BLを読む学生と読まない学生に差が生まれた。「結婚したい」と考えを持ったのはBLを読まない学生で59.8%、読む学生は 38．9%であり、明らかに読まない学生たちが結婚を希望していた形となった。合わせて、「結婚しなくてもよい」という考えは、BLを読まない学生は 25．7%であったところ、読む学生は32.7%であり、約 7%上回っていた。また、結婚の希望に関して「わからない」と回答した学生も、BLを読む学生が読まない学生よりも約5%多かった。性役割に関しては差が生まれることはなかったが、結婚観に関してはBLを読む学生たちがやや否定的に考えていることがうかがえた。

３．まとめ

本研究における調査は簡易的なものであり、各項目に関して掘り下げる質問を行っていない。そのことから、この結果から断定することはできず、これを元に細分化した調査と個別のインタビューを行うことが望ましい。

しかしながら、興味深かったのは、川合（2017）の女子学生への研究であった、男性同士の恋愛を描いたBLをよく読む腐女子は、女性への通念的な性役割に対しては否定的で、恋愛を重視する傾向は低いという結果であったが、現段階では腐女子に限らず伝統的な性役割意識は低下しており否定的な傾向であるという点である。ただし、恋愛観ではなく結婚観ではあるが、こちらは同様にやや低い傾向にあると言える。結婚は見合いを含み恋愛とは異なる意識を持つこともあるが、多くの場合は恋愛のその先にあるひとつの形が結婚と思われる。その結婚に関して否定的とまでは断言できないが、BLを読む学生は読まない学生よりも結婚を望んでおらず、しなくてもよいという考えも読まない学生よりも多かったことは、川合の結果と同様の傾向にあると推測できる。

この結果は、現在の大学生は、腐女子であるかないかは関係なく、「いつかしたい」という結婚観が高く伝統的な性役割認識は否定しているという仮説のうち、結婚観に関しては異なる傾向にあることがうかがえる。将来に結婚をしたいと考える学生はBLを読まない学生で６割強、読む学生で３割強であったことから結婚観も低下傾向であることが示唆された。これは内閣府の結果とも異なるものであった。

今後は、結婚観を細分化した調査と性役割意識に関する年代別の検討が必要である。合わせて、BL読者のBLを読む行動の分析とBLを読まない者との比較検討を深化することが肝要である。また、調査対象者の性別に関して、今回は従来の男女の性別に含まれない者も含み検討したが、男女とするのか男女に囚われない形とするのかについては、更に調査と検討が必要である。

〈参考文献〉

株式会社ネクストレベル, 2020, 「縁結び大学」 https://jsbs2012.jp/date/ 2023年1月7日閲覧

川合南海子, 2018, 現代女性の未婚・晩婚化とジェンダーのゆらぎに関する研究『科学研究費助成事業研究成果報告書』

川合南海子, 2017, 「腐女子のジレンマ」『日本認知科学会第34回大会抄録集』: 148-152.

厚生労働省, 2013, 「平成25年版厚生労働白書」

Basic Research on College Students' Views of Marriage and Perceptions of Sex Roles:
Perspectives of Those Who Read BL and Those Who Do Not

IJIMA, Yuka

The purpose of this study is to examine what kind of views on marriage and what kind of gender role attitudes college students hold from the perspective of those who read or do not read BL. Before conducting a full-scale survey, a brief survey was conducted on the perceptions of college students, who represent the youth, to compile an overview of the attitudes of BL readers and non-readers, and to conduct basic research to help clarify the process of unmarriage and late marriages.

The results showed that at the present stage, students, not only fujoshi but also other students, tend to have a declining and negative awareness of traditional gender roles, and that students who read BL are less willing to get married than those who do not read it and more likely than those who do not read it to believe that they do not have to get married. The results also showed that more than 60% of the students who did not read BL wanted to get married in the future, and more than 30% of those who did read BL thought that they did not have to get married, suggesting that the view of marriage was also on a downward trend.

Key words：College students, BL, views on marriage, gender role awareness, life career